

# 中学生が挑戦・地域に学んだ1週間 トライやる・ウィーク を行いました



中学生が職場体験などを通して地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」を、6月1日から6日までの間の5日間で実施しました。

市内10中学校の2年生843人が市内の246事業所で、それぞれの思いを胸に、貴重な体験活動に挑戦しました。この取組みが始まった経緯や目的、また、今回のトライやるを終えてのそれぞれの感想を紹介します。

《問合せ》こども教育課指導係 ☎231452

## ■始まったきっかけは？

平成7年1月の阪神・淡路大震災では、生命や人権を尊重する心、ボランティア精神、共に生きる心など多くの貴重な体験や教訓を得ました。また、平成9年には神戸市須磨



▲地域の方にケーキ作りを学ぶトライやるの生徒

区で少年による児童殺害事件が発生し、人間としての在り方・生き方をあらためて考えさせられました。

県では、これらを教訓として「生きる力」と「心の教育」の充実を図ることが必要という認識を深め、子どもたちが自分なりの生き方を見つけられる取組みとして、県内の公立中学校2年生全員を対象とした、1週間の長期体験活動「トライやる・ウィーク」が始まりました。

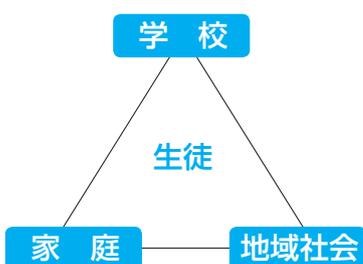
## ■トライやるのトライとは？

「トライ」の名称は「挑戦する(トライ)」とともに「学校・

家庭・地域社会の三者(トライアングル)」の意味が込められています。

具体的には、子どもはいろいろな体験をするべきという思いと、先生と親だけでなく地域のみんなで子どもを育成しようというものです。

## 〈トライアングル〉



## トライやるを終えて

### ○生徒

・この一週間がないまま大人になっていたら後悔していたと思います。あいさつの大切さに気付かされました。最初は質問ができず、相手の方に迷惑を掛けてしまうこともありましたが、指導ボランティアの方のアドバイスで自信が付きました。

・トライやるは、とても有意義でした。この体験の陰で多くの方の支えがあったことは決して忘れません。

### ○地域社会(指導ボランティア)

・園児たちと毎日元気に遊んでくれて、園児たちはいつも楽しみに待っていました。日常では見ることのない商品も手にしてもらいました。体力的にもつらかったと思います。

### ○家庭

・子どもたちのやる気に満ちた真剣な顔や、素晴らしい笑顔がとても印象的でした。事業所の方から「礼儀正しく、あいさつもできています」などの声を聞き、うれしい気持ちになりました。

・それぞれの夢や職業を考え、将来への一歩を踏み出したのではないのでしょうか。

### ○学校

・トライやる後、子どもたちは久しぶりに出会った友達とにぎやかに体験談を交わしていました。学校では体験できない良い体験をしてきたと思います。特に今年「人と人のつながり」をありがとうございました。

## トライやる・ウィーク 参加生徒数

学校名	生徒数
豊岡南	191人
豊岡北	208人
港	38人
城崎	25人
竹野	37人
森本	13人
日高東	111人
日高西	66人
出石	102人
但東	52人
計	843人

# 市広報紙作り に挑戦!!

このページは、トライやるで総務課・秘書広報課に訪れた豊岡北中学校2年生の3人が作成した奮闘記です。



木築俊貴 | 北村大樹 | 西村健太郎

## 中貝市長にインタビュー

6月5日、市役所市長室で中貝市長にインタビューをしました。

### ●どんなまちにしたいですか？

『コウノトリ悠然と舞うふるさと』にしたいです。コウノトリの悠然と舞う姿をみんな健康で見ただけのように、



▲中貝市長にインタビューするトライやるの生徒 (北村撮影)

### ●豊岡市を漢字・文字で表すと？

医療や福祉を充実していきたいです。また、スポーツや文化も盛んにし、コウノトリも人も住めるよう、もつと環境も良くしたいです。

『悠』です。コウノトリが悠然と舞えるようなまちづくりをしたいです。

### ●トライやるをどう思いますか？

いろいろな人生の中でそれぞれの生き方、将来への道が見つかるヒントになるから、とても良いことだと思います。これからも続けてほしいです。●**未来を担う子どもたちへ!**ふるさとのことを勉強して、そして、豊岡を好きになってほしいです。

## 「トライやる」を取材

6月5日、市内で実施している「トライやる・ウィーク」を取材しました。

図書館本館では、トライやるの中学生7人が、職員に教えてもらいながら図書の整理や清掃などをしていました。

図書館は、本館のほかに分館が5つあり、図書の総数は、全体で約28万冊で、1日に約800人が訪れます。

図書館には、本屋さんでは見られない、いろいろなジャンルの本があり、子どもから高齢者までの幅広い年代の方が利用されています。

その館内は、市民の安らぎの場として、心地良い雰囲気を提供していました。



▲職員に教わり図書の整理をするトライやるの生徒 (木築撮影)



▲利用者から図書の返却を受けるトライやるの生徒 (西村撮影)

トライやるについて、図書館長の池上 晃さんは「トライやるは、いろんな思い出や経験ができるし、中学生が図書館に来ることで、全体の雰囲気明るくなり、うれしいです」と話し、図書を借りに訪れた谷田弘子さん(赤石)は「私たちのときにはなかったことであらやましいです。生徒さんたちはいい経験ができるので、とても素晴らしいことだと思います」と話していました。

トライやるの豊岡南中学校の岡田真希さんは「図書館の利用者に『これからは頑張ってください』と言われてうれしかったです。これからはどんな人にもあいさつをしたいと思います」と話していました。

## 編集後記

### ▼北村大樹

取材をした方は仕事などで忙しいのに嫌な顔一つせず取材に応じてくれて、感謝しなければいけないと思いました。取材は、相手をリラックスさせなければいけないのに、自分が緊張してしまっても難しいと思います。プロってすごいと実感しました。

### ▼木築俊貴

図書館の取材や市長へのインタビューは、若干緊張したけれども、普段、学校では経験できないような体験で、こういう雰囲気はなかなか味わえないと思いました。このトライやる・ウィークでの活動を忘れずに、今後の生活に役立たせたいです。

### ▼西村健太郎

市長へのインタビューは、とても緊張しました。しかし、ほかの2人と協力することで詰まることもなく取材することができました。図書館では、分かりやすいメモを取ることや見やすい写真を撮ることなど、あらためて取材の難しさを感じました。